

JET からの手紙

平戸市 CIR のウィッシュリスト

長崎県平戸市文化交流課

丁 睿朗 (テイ エイロウ)

私がここにいる理由

「日本最西端の駅」の石碑がある長崎県平戸市の国際交流員（以下「CIR」）として今年で3年目となりました。平戸市は、トビが空を舞い、きれいな白い砂浜と透き通った海水に囲まれた静かなまちです。このようなところで暮らすのが、長年の私のウィッシュ（願い）でした。JET プログラムを通して、ウィッシュリストにチェックが増えてきました。

平戸市で3代目の中国人 CIR としての日はまだ浅いですが、日本における海外の窓口であった平戸市は昔から中国と盛んに交流が行われています。その中でも、平戸生まれの「東アジアの英雄」と呼ばれる鄭成功の父鄭芝龍が福建省南安出身だったことなどが縁で、平戸市と南安市は1995年に友好都市として締結し、2020年10月に25周年を迎えました。これを記念し、両市同時にこれまでの交流の歴史を振り返る写真展を開催しました。

2020年は、新型コロナウイルスの影響により海外と



「日本最西端の駅」の石碑
(筆者撮影)

の往来が閉ざされましたが、このような状況下だからこそ、25周年の節目を大切に、悔いの残らない取り組みをしたいと思っていました。

小規模な展示ではありましたが、平戸市民に南安市の魅力を分かりやすく伝えたいと思い、写真の配置や展示パネルのデザインを工夫しました。直接展示パネルに写真を貼るのではなく、大きめの黒スチレンボードを背景に、白いノリ付きパネルの上に写真を貼るほうが綺麗なのではないかと思い、職場の人の協力のもと3枚のパネルに、交流の歩みや南安風景などのテーマで約130点の写真を展示しました。同じ課の人にタイトル文字などを細かく切りぬく作業を手伝ってもらった際、熱心に作業に没頭している姿を見てすごく感銘を受けました。職場の協力にはいつも感謝しています。

友好都市交流事業の一つとして、両市の中学生による交互訪問を行っています。2019年、私は、平戸市の中学生が中国南安市を訪問する際、通訳を含む随行人として同行しました。訪問する中学生の中には、海外だけでなく飛行機も初めてという生徒もいました。両市の生徒



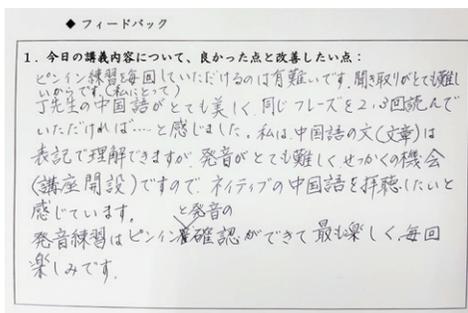
長崎県平戸市と中国南安市の友好都市締結25周年記念写真展



平戸市の中学生が中国南安市を訪問
九日山での集合写真（前列右から1人目が筆者）



第2回中国語講座の受講生との集合写真



中国語講座参加者の感想文

と過ごした約1週間は、素敵なかけがえのない思い出と経験となりました。私が、生徒達に最も期待していたのは、現地の人々や文化に直接触れる交流を通して、近い将来また海外に足を運ぶ勇氣、広い視野を持ち続けていってほしいということです。

もう1つの実現した願いは、中国語講座です。CIRとして1年目から、市民向けに中国語講座を始めました。市販の教材を使いましたが、自作のPowerPointの資料も用意し、さまざまなプレゼンテーションを行い、実家の北京や中国の文化などの紹介もしました。私が一方的に話をするのではなく、毎回、受講者に質問や要望などを書いてもらい、その要望などに合わせ次回の講座内容を調整しました。受講者からは「まったく知らなかった中国の文化に触れて、とても面白いです。益々中国のことが知りたくなりました。」などのコメントをいただき、とても達成感がありました。

一番残念だったことから実現したウィッシュ

前任のCIRが平戸市広報紙のコラムにこう書きました。「一番残念だったことは中国のSNSに平戸の公式アカウントを作成できなかった。」

これを読んで、「よし！私は中国向けの平戸市を紹介するSNSを作ろう！」と思い、2020年の3月に中国で最も使用されているSNSのひとつ「WeChat」で「長崎

県平戸市の小編集」(長崎県平戸市の編集ちゃん)というアカウントを作成しました。SNSの運営については、ゼロからのスタートだったので、職場の上司などに相談し、発信する内容や形式などについてさまざまなアドバイスをもらいました。1人でも多くの人に平戸市の魅力を伝えたいので、平戸市にある世界文化遺産「春日集落、中江の島」や樹齢約140年の「慈眼桜」や平戸の名物「平戸牛」など幅広い取材活動を行いました。職場のみんなのサポートが厚いからこそ、2年間かけて取材することができ、2021年3月に平戸市のPR動画を完成することができました。この動画を通して、平戸で出会った友人、いつもサポートしてくれた職場の皆さん、平戸にいる達人たちに感謝の気持ちを伝えていければと思います。

最後に



仕事以外で趣味を通していろんな人と交流することもとても大事だと思います。仕事を忘れて没頭できる趣味を持つことで心のバランスをとることができます。

バドミントン練習中 今年、自分のウィッシュリストに「平戸市・南安市中学生オンライン交流」を書き入れました。コロナ禍で予定していた取り組みが思うようにできない時だからこそ、今までやったことのないことに挑戦したらいいんじゃないかと思っています。皆さんはどんな願いに向かって頑張っていますか。

プロフィール



丁 睿朗
(テイ エイロウ)

中国、北京市出身。北京第二外国语学院日本語学科を卒業後、北海道大学大学院で言語文学修士号取得。その後1年間同大学の事務局に勤務。中国に戻り日系企業で2年半勤務し、人事総務を担当。2019年4月より現職。趣味はバドミントン(県大会を目指す)、釣り(アジング)、生け花、ガンプラなど。



Facebook ページで掲載された平戸市のPR動画のQRコード